

## 国家戦略スタッフ・政務スタッフのイメージ（キーワード）

※国会答弁・制度懇の議論より抜粋

## 【役割】

- 官僚に対する政治のコントロールを強化すべき（5月9日 渡辺大臣答弁）。
- 総理大臣による政治主導の強化を図ることがその眼目。まさに国家戦略の企画立案に当たるスタッフという位置付け（5月14日 渡辺大臣答弁）。
- 国家戦略スタッフや大臣スタッフという特別職を設け、まさに裏方として、大臣あるいは総理を支えるそういう仕掛けを盛り込んだ（5月14日 渡辺大臣答弁）。
- 国家戦略スタッフは、総理官邸の裏方として戦略的かつ機動的な政策判断や、迅速な意思決定の必要性をサポートするもの。まさに国家的な重要政策に係る企画立案に関して内閣総理大臣を補佐する職として設置（5月28日 渡辺大臣答弁）。
- 本来の議院内閣制にふさわしい政策決定プロセスを実現するには、一定のスタッフ、裏方が必要だというのが、議論の根本にある発想（渡辺大臣 制度懇第5回）。
- 大臣が主導して政策をつくるためには、大臣1人で乗り込んでも、難しい。ある程度のチームでマニフェスト実行部隊をつくっていくということが必要（渡辺大臣 制度懇第5回）。

## 【人材・規模】

- 事務次官クラスを数十名という議論（制度懇）がなかったわけではない。そもそも国家戦略スタッフは、内閣の重要政策について企画立案を機動的に補佐するというための部隊。その趣旨からすると実務を機動的にこなすために、中堅・若手の人材も必要。人事規模については今後の検討課題だが、イメージとしては数十名から百人くらいは必要になるのではないか。（6月3日 渡辺大臣答弁）。
- 国家戦略スタッフや政務スタッフは、特別職の国家公務員とするとともに、公募を活用するなどして、行政機関の内外から高度な専門知識や経験を持つ、また有能な人を機動的に登用。（6月5日 渡辺大臣答弁）。
- 内閣官房に相当の量の国家戦略スタッフを置いて、ここが政治との接点になり、それ以外は原則として接触しないというのは非常にわかりやすい整理（岩田委員 制度懇第9回）。
- 国家戦略スタッフは、特定の知識、例えばアラブについての知識があるとか、軍事知識があるとか、あるいは企業会計に特別な知識があるとか、そういう人だと思う（堺屋委員 制度懇第11回）。

## 【処遇等】

- 国家戦略スタッフや政務スタッフは、特別職の国家公務員とするとともに、公募を活用するなどして、行政機関の内外から高度な専門知識や経験を持つ、また有能な人を機動的に登用（再掲）。これらの職を有効に活用するため、相応の給与の支給や兼業などに関して柔軟な勤務体系とすることなどを想定。退任後の扱いとしては、例えば、一般職の公務員が国家戦略スタッフや政務スタッフに任用された場合、その任を終えた後に再び一般職の公務員として勤務を継続できるような仕組みを整備することなどを想定（6月5日 渡辺大臣答弁）。

以上